



浅野川中学校だより

あさのがわ通信



発行 令和8年2月24日
第77号 金沢市立浅野川中学校
Email asanogawa-j@kanazawa-city.ed.jp
学校ホームページURL
https://kanazawa.schoolweb.ne.jp/1720013

* 学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

ミラノ・コルティナ冬季オリンピック特別号

～自分自身の『最高』に挑み続ける！～

2月22日(日)、イタリアで開催されたミラノ・コルティナ冬季オリンピックが閉幕しました。日本選手団は、フィギュアスケート・ペアでの日本勢史上初となる金メダルをはじめ、合計24個のメダルを獲得する歴史的な活躍を見せました。メダルの有無にかかわらず、極限の状態で戦ったアスリートたちが発した「本音の言葉」には、みなさんのこれからの生活のヒントになるメッセージが詰まっています。

【三浦璃来選手・木原龍一選手（フィギュアスケート・ペア 金メダル）】

木原選手:「フリーの日は、朝から僕のメンタルが弱くなってしまっていて……。それを支えてくれたのは、やっぱり璃来ちゃんじゃないとできなかったですし、彼女がいたから立ち直れた。一人ではここまで来られなかった。本当に感謝しています」

三浦選手:「(逆転での金メダルについて)この4年間、二人で積み上げてきたものは嘘じゃなかったんだと。苦しいときも二人で前を向いてきた結果だと思えます。みなさんの応援が、私たちの背中を最後に押してくれました」

一人では抱えきれない壁も、信頼できる仲間がいれば乗り越えられる。自分を信じてくれる誰かの存在が、最後に大きな力を与えてくれます。

【平野歩夢選手（スノーボード・男子ハーフパイプ 7位入賞）】

「(競技を終えて)今は、生きて帰ってこられてよかったという気持ちも少しあります。でも、この競技において、自分にはできない『最先端』をこれからも作り続けていきたい。今回の経験は自分にとって大きなプラスになると信じています。この進化を求めて、またゼロから取り組んで積み上げていきたいと思っています。引き続き、温かく見守っていただければありがたいです」

平野選手は、王座を守るプレッシャーだけでなく、直前の大怪我という絶望的な状況に立たされています。しかし、彼は「結果」がすべてだとは言いませんでした。みなさんも、思うようにいかないとき、平野選手の「またゼロから積み上げていく」という言葉を思い出してください。失敗や怪我さえも「進化」の糧にする彼の姿は、本当の「強さ」とは何かを教えてくれています。

【高木美帆 選手（スピードスケート 500m、1000m、団体パシュート 銅メダル）】

「(本命の1500mで6位に終わり、涙を流しながら)正直、今は言葉にするのが難しいです。この4年間、積み上げてきたものを出したいという思いでリンクに立ちましたが、これがスポーツなんだと痛感しています。でも、メダルが獲れなかったからといって、自分のやってきたことがすべて無駄だとは思いません。完璧に仕上がってレースに挑む感覚なんて、今まで一度もありませんでした。常に『今日よりも、少しでも良くしていこう』という感覚で挑んできた毎日。その積み重ねの先に、今の自分があります」

「自分はまだダメだ」と思うことは、裏を返せば「まだ伸びしろがある」ということです。完璧を求めるのではなく、「昨日より少しだけ上へ」という日々の積み重ねが、みなさんを遠くまで連れて行ってくれます。

【鍵山優真選手（フィギュアスケート・団体、男子シングル 銀メダル）】

「前回のオリンピックからの4年間、怪我で滑れない時期もありました。でも、そのと時間が自分を強くしてくれた。今回の銀メダルは、逃げずに自分と向き合ってきた証だと思えます。でも、まだ金メダルへの壁は高い。その壁を楽しんで、これからも滑り続けたいです」

アスリートたちの言葉に共通しているのは、「感謝」と「次への一歩」です。世界最高峰の舞台でさえ、選手たちは「悔しい」「まだ足りない」と口にします。しかし、彼らはそこで立ち止まりません。支えてくれた人への感謝を力に変え、すでに次の自分を見据えています。

みなさんも、テストの結果や部活動での失敗に落ち込むことがあるかもしれません。そんなときは、彼らのように「ここからどう進化するか」を考えてみてください。みなさんの毎日も、自分自身の「最高」を更新するための大切なプロセスなのです。

